

今年もお世話になりました。良いお年を！



玉虫さん宅近く移動店での巨大鮪カマ



年末恒例の清水寺、今年の漢字

今年も残り少なくなってきました。きんきサロンも、皆さまのご協力のおかげで無事この一年を過ごすことができました。ありがとうございました。

年の最後の記事は、いぶやん苦肉の三題断です。「マグロ」「熊」「年末」。マグロと言えば青森県の大間で獲れる本マグロですね。お正月の初セリでは一本一億円のご祝儀相場で落札されたりする、ブランド中のブランドです。さて山に食料が無くなって困った熊さん、一計を案じまして、民家の近く柿を食べるなどというケチくさいことはもうせず、年末の大間の海に入り、マグロを一匹仕留めて、新年のセリに出し、一攫千金を狙おうと心に決めました。そのお金で山の熊仲間へ腹いっぱいごちそうを食わせてやろう…と。鮭を獲れるのだからマグロだって獲れないはずがない、ちょっとでっかい鮭だと思えばいい…。腹をすかせた熊の一念は恐ろしいもので（悪戦苦闘はしましたが）みんごとマグロを獲り大金を得て山に帰りましたとさ。

この話には続きがありまして、山の熊仲間たちはこの成功に刺激され、われもわれもと（もう人里で食料をあさるということはやめ）海に入りマグロを獲るようになりました。この熊マグロが日本中に流通して、マグロの値段が下がったのです。熊を自衛隊が駆除するという物騒な話はもちろん立ち消えになり、人間と熊はウインウインの関係を築いて平和に暮らしましたとさ…。

さてオチをつけなければならないのですが…、われわれ五行歌を書く仲間は、年末ジャンボ宝

くじを買うのもいいですが、自分の五行歌の力を信じて、どんどん歌集を出し、詩歌の文学賞を狙うのもありではないでしょうか。中原中也賞でもH氏賞でも、読売文学賞でも、審査員に見る目さえあれば受賞してもおかしくないはずです（賞金は百万円ほどありますよ）。このマグロ獲り熊さんのようにチャレンジしてみようではありませんか。この三題断、出来はいいものでしたかね。ともあれ皆さま良いお年を！

さて、322 回例会、今回の一席は青藍さん。裁縫中の母の針を踏んでしまって、その痛みよりも、そのことで母親が父親に叱られたことが刺さったという痛切な記憶、全員の心を掴みました。二席は二首。いぶやん作、比喻が面白いと好評。玉虫作、さりげない描写に友との友情が滲みます。三席小倉はじめ作、悟りを得た大人の風格を感じさせるお歌でした。（いぶ記）

### 第 322 回きんきサロン歌会

1  
不揃いの鉄塔に  
つながって つながって  
高圧線は人々の生命を  
つないで つないで  
無限大になる

西村康則 5 点

2  
逃げても 逃げても  
晩秋の愁いは  
月のように付いてくる  
居酒屋で  
撒(ま)くとするか

いぶやん 9 点 同二席

3  
友の便り  
悲しい知らせの  
終わりに  
今日は初雪でした  
山も白くなっています  
玉虫 9点 同二席

4  
お取り寄せと  
お土産と  
ふるさと納税お裾分けの  
みかん届く  
甘いみかんの日  
平村幸子 6点

5  
温厚な父が  
母を叱った日  
踏んだ針よりも  
叱声が刺さって  
泣いた  
青藍 11点 一席

6  
木も地も  
イチヨウの葉で黄  
バス内から見てる  
我が頬も黄色に  
堀川通り  
黒田節子 4点

7  
息子の手料理に  
くちゃくちゃ顔で舌鼓  
食の満足は  
幸せ運び  
母サイコーの笑顔  
HIKARIKO 2点

8  
年の瀬  
迎えて  
今  
心は平(たいら)である  
それがうれしい  
小倉はじめ 7点 三席

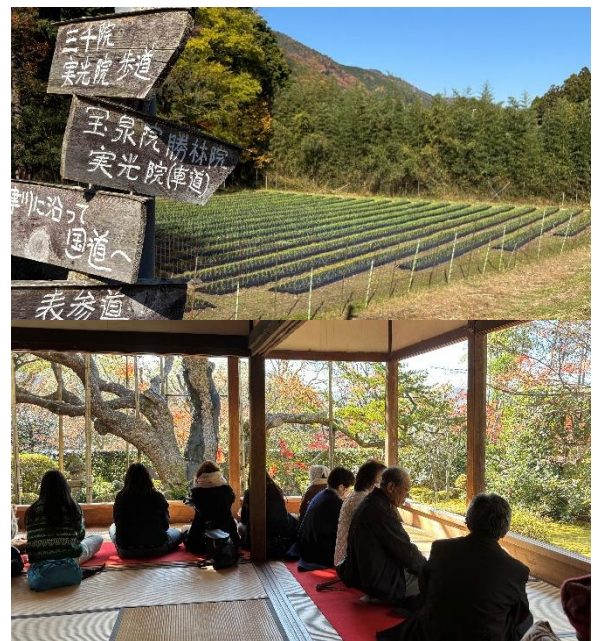
■（参加者：7名）いぶやん・小倉はじめ・黒田節子・青藍・玉虫・西村康則・平村幸子  
（歌のみ参加）HIKARIKO

■一月例会のご案内  
日時：一月十一日(日) 13:30 より（13:00 には開場いたしております）  
会場：ウイングス京都・二階第②会議室

■午前中に恒例の「八坂神社初詣」に参ります。  
八坂神社石段前に午前十時半集合。昼食場所は追ってお知らせいたします。＊歌会後有志での新年会を予定しています。

■二月例会：「関西新春合同歌会」のため休会です。

■編集長のひと言



このところ、秋は一瞬で過ぎて冬へと駆け足四季ではなく二季の感じになってきていますが短い秋を探索に、大原を訪ねました。混雑をさけて定番の三千院ではなく、宝泉院というお寺にしました。駐車場から登っていくその道には冬野菜も植わっている里の秋を感じるのどかな景観が新鮮でした。拝観料も抹茶付@900円と割安でした。もう滋賀に住みついて45年になりますが、車で30分の距離にありながら初めての訪問でしたが、来年もまたこのようなとの感激でした。

さて、今年もあとわずかとなりましたが、こうして、No41が発行できて喜んでおります。情報発信にも様々な媒体がありますが、とりあえず自分たちでできることを、細目に発信していきたいとの思いでスタートしました。本部のHPからもダウンロードできるようにしていただき、見ている方が増えたのもうれしい事です。伊吹代表共々来年も頑張りたいと思っています。皆さまも良いお年をお迎えください。  
(はじめ記)